うしく里山の会 広報誌
さとやま
No. 116　2012年10月号

NPO法人 うしく里山の会
事務局 〒300-1212 茨城県牛久市結束町489-1
（牛久自然観察の森内）
TEL 029-874-6600　FAX 029-874-6812
HP http://ushiku-satoyama.org/
（アドレスが変わりました）

自分で育てて　自然の厳しさや楽しさを体験

親子農業体験講座　飯田雅俊

親子での楽しい蕎麦打ち体験

蕎麦打ちへのお誘い

この夏は寝不足で通勤車内で熟睡をするようになってしまいました。過去にクラーを効かせて寝ていたら翌朝身体が硬直して起きれない事があり、それ以来避けています。我が家では女子３人がクラーを効かせてスヤスヤ、男子１人が網戸部屋でフーフー寝ています。ようやくの朝晩の涼しさが車内を寝台車から図書室に替えて熟読できそうです。この会報が届くころには、視覚・味覚で里山の秋を感じられていることと思います

親子農業体験講座も後半に入り、収穫が楽しみの季節になりました。今年は、運営体制が変更になり参加者を限定して事業を始めてまいりました。後半に入り、事業の運営も軌道に乗ってきました。芋煮会そして蕎麦打ちと楽しいことが待ってます。

この事業の最後となる蕎麦打ちですが、昨今、蕎麦打ちは大人の道楽などとも言われています、またあちこちで蕎麦打ち道場なども目に耳にすることが多く、興味を持たれている方が多くいることと思います。

今年は参加者を限定したことで蕎麦打ちに余裕があり、興味のある方がいましたら、蕎麦打ち道具を購入する前に、蕎麦打ち道場に行く前に、気軽に蕎麦打ちの入り口を一緒に楽しんでみませんか。

蕎麦は８月に種まきを行い、「牛久自然観察の森」の畑で大きくなっており、白い花の咲くころです。

蕎麦打ち参加者を追加募集いたします、

参加費有り、会員限定。

日程は次のとおりとなります。

10月20日（土）蕎麦の刈り取り。
11月３日（土）蕎麦の実落とし。
12月１日（土）蕎麦打ち。

日程は雨等の状況により変更することがあります。参加をお待ちしております。食欲の秋、美味しい蕎麦を食しませんか。

申し込みは飯田まで。

あやめ受託事業報告

坂　弘毅

雑草との闘い、一服の清涼剤・ミズワラビ

アヤメ園の年間最大の課題、株分けが8月一杯で終わり、遅れていた除草作業が始まりました。しかし、今年の異常気象の影響もあるのでしょうか、雑草は異常なほどの成長で、本来のハナショウブがどこにあるのか分からない状態です。ですから、除草はハナショウブの救出作戦と言った趣があります。

雑草は二極化していまして、古い圃場には人の背丈もあるイネ科のアシ、タイヌビエ、イヌビエ、アブラガヤ等の他、メヒシバやオヒシバ、キシュウスズメノヒエ、が侵入しています。

そして新しい圃場は3～4年前に目立つようになったニューフェース、ヒレタゴボウ（別名：アメリカミズキンバイ）が猛威をふるっています。黄色い可愛い花ですが、花が終わり結実すると1㎜にも満たない猛烈な数の種子をまき散らします。種子からの発芽も早く、粉のように蒔かれますので除草して間もなくすると、一面ヒレタゴボウの若葉（双葉）で一杯になります。ヒレタゴボウは放っておくと人間の背丈ほども伸び、無数の黄色い花を付け、茎は木質化してきます。

ここまで来ると、いい加減な鎌では切り取ることが出来ません。アヤメ園は猛烈な雑草に日々蹂躙され続けています。

汗を流しながらの除草作業が進み、振り返るとハナショウブの緑と土の色が新鮮です。そして、最近思わぬ発見がありました。除草が進み、地面が見えてくると、小さくて本当にか弱い姿の「ミズワラビ」が無数生育していることです。

雑草憎しと、黙々と作業が続きますが、最後に小さくて爽やかなミズワラビを見つけると、ホッと心が癒される気持ちです。

これは環境省レッドデータブックには指定がありませんが、茨城県及び牛久市のレッドデータブックでは準絶滅危惧として指定されている貴重な植物です。

かんかん照りの猛暑であっても、大きな雑草に光を遮られ、ハナショウブの側でひっそりと育っているのかも知れません。出来るだけ残そうと慎重に作業をしていますが一部では除草されてしまっているかも知れません。

＊ミズワラビ（水蕨）は、シダ植物門ホウライシダ科に属するシダで、シダとしては珍しい水草で、水中、あるいは湿地に生えています。熱帯地方に広く分布し、日本では本州中部以南に分布しています。水田によく生えていましたが、現在では見ることが少なくなりました。

小さくて爽やかな　ミズワラビ

里山自然観察隊

平塚　芳雄

9月のモニタリング1000里地調査を実施

去る、9月13日（木）、月次定例のモニタリング1000里地調査（植物相）を実施しました。

午前8時30分、得月院前駐車場に集合、参加者は常連の3名。いつものように所定のコースでの調査。

当日は9月半ばというのに晴天で暑い日。炎天下の活動で、途中何カ所かある樹木のトンネルの中に入ると、ホットするような情況で、秋の気配が殆ど感じられませんでしたが、毎回途中休憩する斜面林南面下のコナラ等の木陰の面積が大分狭くなってきたのに気付き、同じ時刻でも太陽の位置角度が低くなり日陰が伸びてきたことで季節の移りを実感しました。暑さと確認種数の多さからか調査終了は予定より遅れ午後1時15分頃に。

途中、牛久城址西側の田んぼでは黄金色の稲穂が頭を垂れ実りの時期を迎え、一部では既に稲刈りが済んでいました。畦道は除草剤が使用されたためか枯れた草の僅かな残骸と土が剥き出しの所が多かったのですが、

林縁で普通に見られるイノコズチ

小川の流れに沿った縁には黄色の花をつけたヒレタゴボウが群生していてその緑が際立ちます。この厄介者は農薬に強いのか。ヒレタゴボウはアカバナ科チョウジタデ属で熱帯アメリカ原産の帰化植物、水田雑草として嫌われている1年生草本です。

今回も道路際の以前は薮になっていた所の多くがきれいに草刈りされていましたが、つるが伸び高い枝から地上まで何本もの釣り糸を垂らしたような状態のカラスウリが確認できました。地面に接したところからは根が出ていました。カラスウリはウリ科カラスウリ属で花は8月～9月の夕方薄暗くなってから咲き始め朝には縮んでしまいます。昨年は台風のためカラスウリの緑のカーテンが貧弱でしたが今年は台風がまだ来ないためかまずまずの状態で楕円体の実もかなり生長し直径5～6㎝に。

この調査コースで確認したイノコズチの仲間はイノコズチ、ヒナタイノコズチ、ヤナギイノコズチの3種、不確かな知識ではその見分けに迷うこともしばしばです。

牛久城址や得月院西方の斜面林ではミンミンゼミやゴトゴトゴエシのセミの声が未だ多く聞こえました。

蚊には悩まされました。調査に先立ち手や首に殺虫スプレで吹き掛けて臨んだのですが何ヵ所も刺されあまり効果がなかったようです。

今回確認し地域別にリストアップした種数は前月より多く延べ約460種。毎年9月は多くなります。

ヒレタゴボウの花と実

雑木林応援隊

阪口　昭義

「草木染め」の応援隊

8月26日の一般公開「草木染め」の裏方活動を報告します。実は、私は草木染めがどんなものか、また、どうやるのかも知りませんでした。そしてこの日も、草木染めそのものにはまったく関わりがありませんでした。この日のもうひとつのイベントである流しソーメンの準備と実行に没頭してました。

まず、ソーメンを流すための竹の樋の準備です。男性隊員3名で、竹林から根の直径が15㎝位で、長さが約7m位のなるべくまっすぐな孟宗竹を切り出してきました。これを縦半分に割り、トゲがささらないように鉈で仕上げます。次に節を取り払いますが、きれいに削ってしまうとソーメンがスムースに流れすぎてアッという間にとうりすぎてしまいます。節をどのぐらい削るかが微妙な技なのです。

次は水受けを乗せる樽の組立てです。長さ2m位の真竹を4本立てて上部に水受けを乗せる台を作ります。水受けは発泡スチロールの箱で、側面に水とソーメンが流れ出る穴があいています。これをさきほどの樽の上に乗せ、固定しました。

孟宗竹を割って樋の準備です

さきに作っておいた竹樋の太い方を水受けの下部にくるように固定し、水勾配をみながら竹樋の先端も固定します。竹樋が長いので、途中でたるまないように支柱で支えるようにしました。水道ホースの先端が水受けの中に入るようにセットし、試しに水を流してみました。「ちょうどいい具合ですね」あとは、よく清掃して流しソーメンの仕掛けは完成です。

樋の傾斜をみて
ソーメンの流れ具合を調整

さあ次は薬味の準備です。横の畑で取ってきたみょうがや、長ネギなどをきざみました。ソーメンだけだと飽きるので、途中にミニトマトや梨も流すように細かく切って準備しました。

そんな準備作業の中、女性隊員や、一般参加の女性達の嬉しそうな声が聞こえてきました。「ウワーきれいね」「ほんと、いい色だねー」　そうだ今日は草木染めをやっていたんだっけ。振り返って声の方を見ると、なるほどきれいな布地がいっぱい干してありました。この感嘆の声が聞きたくて我々男性軍もがんばっているのです。

さあ、いよいよソーメンを茹でます。大鍋の中でお湯が沸騰してます。「ソーメンが中で固まらないように、パラパラと入れてください」　「はい、アチチ、すみません、炎が強すぎてできるだけ我慢してたのですが、つい束ごと入れてしまいました」

「・・・・・」　「ワー、ふきこぼれそうです。はやくビックリ水を入れてください」　まきで炊いているので火の加減が出来ず、ついふきこぼれてしまいます。「まだ硬いかな」　「まあいいでしょう」

「そうだ、おそばも茹でておかないと」などと悪戦苦闘がつづきました。「さあ、みなさんソーメンを流しますよー。どうぞ召し上がってください」と云うわけで、みなさんおいしそうに召し上がっていました。ちなみに、右利きの人は、樋から見て、竹樋の右側のほうがソーメンを掬いやすいですよ。

この日、評判だったのは、ソーメンを差置いて梨とめんつゆのなかに入れる薬味のゆず胡椒が人気でした。でもみなさんが、おいしい、おいしいと言ってくれていたので、ほっと胸をなでおろしました。草木染めの方も、ほんとに色とりどりに染め上がってすごく綺麗でした。

この日も猛暑の中、みなさんほんとに、ほんとにご苦労様でした。楽しい一日でした。あとは、もうひと踏んばり、あとかたずけです。そして、また来年も「うわーきれいねー」「とってもいい色合いねー」「淡い色が素敵ねー」と云う声が聞こえてくるように、表方も裏方もがんばりましょう。

参加者全員でソーメンを味わっています

巨木リサーチ2事業報告

渡辺　泰

牛久における自生木本植物の生育環境

巨木リサーチ事業は巨木等の調査とその成果の市民への広報、診断・管理に主眼を置いて活動してきました。後半の活動では、普通の木本植物を対象として取り上げております。

ここでは、牛久における木本植物の生育環境の現状を概観します。牛久市域は植物の水平分布からみると、スダジイなど照葉樹林（常緑広葉樹林）で代表される暖温帯性植物の地域に当たります。

木本植物の生育地は牛久沼東斜面林のような場所を除いて、ほとんどが人工林で、個々に生える自生樹木の生育は人為的影響を強く受けるのが特徴です。市内の自生木本植物は約１３０種あり、その自生場所はおよそ次の８つに区分できます。

人工林は周到な利用・管理がなされていましたが１９６０年代以降、多くが放任状態に置かれるようになりました。このため、植生遷移(注)が起こり、次項で述べる極相の照葉樹林に向かって進行しています。具体的には照葉樹林の構成樹種であるアオキ・シラカシ・シロダモ・ヤツデなどが林床に生え、生育しています。本来これらは土地利用から見ると、除去しなければならない樹種です。以下、人為的影響の少ない順に概説します。

（注）ある群落が時間の経過と共に他の群落に変っていく過程をいいます。裸地に先ず1年草が生え、次いで多年草に変り、やがて生長の早い樹種が林を作り、最後に地域特有の森林になり安定します。これを極相といい、牛久では照葉樹林が極相です。耕作放棄地で進行中の現象が好例です。植物群落は常に変化しており、植物生態学的には、土地の管理は遷移の進行を止めることだといえます。

一．斜面林　市内には洪積台地があり、その縁に写真のような半自然的な斜面林が形成されています。台地先端の急峻な崖は照葉樹林で被われ、高木層がスダジイ・シラカシなど、亜高木層がシロダモ・モチノキなど、低木層がアオキ・ヤツデなど、草本層がベニシダなどで構成されています。自生木本植物の種類が最も豊かな場所です

　これらは遷移の最終段階である極相の照葉樹林です。斜面林の肩や下部には、森への風の吹き込み制御などの役割を果たすマント群落やそで群落があり、前者はアカメガシワ・ヌルデなど、後者は主に草本植物からなります。ただ後者の多くは除草されています。なお土地の利用・管理が可能な緩い斜面はスギ林や竹林になっています

二．河畔林　沼畔・川岸などの半自然的な湿性地にはマルバヤナギ他のヤナギ属やハンノキなどが生育する河畔林があります。ただ河川改修や土地改良が進み、このような場所は限られています。

三．社寺林　市内には46の神社、17の寺院があります。牛久の社寺境内には、極相林である鎮守の森は見られませんが、イチョウ・エノキ・カヤ・クスノキ・ケヤキ・スギ・スダジイ・ムクノキ・ヤマザクラ他の巨樹が生育しています。

稲荷川沿いの斜面林　城中10.6.1

四．屋敷林　旧家には屋敷林があり、周りには主にシラカシの防火・防風林があり、ケヤキ・スギ・竹類などが植栽されており、氏神としての巨樹も見られます。管理不十分な所では遷移が進んでおり、アオキ・ヤツデなどが侵入しています。

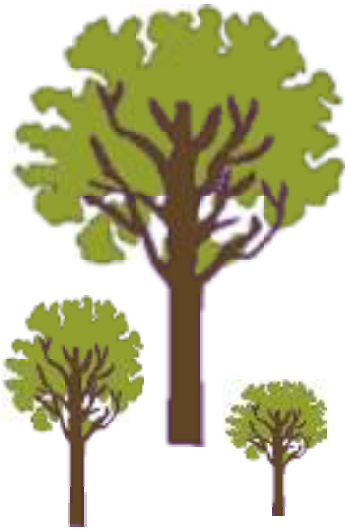
五．スギ・ヒノキ林　かつては土地面積のある旧家では建築用材を確保するため、スギ・ヒノキ（サワラ）を植栽し、維持・管理を行ってきました。現在は多くが管理不十分で遷移が進んでおります

六．雑木林他　以前は耕地の肥沃度維持や薪炭生産などのため、重要な役割を果たしていましたが、現在は多くが放任状態におかれ、遷移が進行しています。なお以前のアカマツ林はほぼ姿を消し、シラカシ・ムクノキなどの混合林になっています。

七．竹林　かつては農業生産・生活資材を供給してきましたが、現在は多くが放任状態におかれ、モウソクチク・マダケ林とも遷移が進行しています。

八．公園・庭園他　市内には１３５の公園があり、雑木林跡に造成された所にはクヌギ・コナラなどの在来樹種が生育しています。また庭園にはイヌツゲなどが生垣や庭木として植栽されています。

　後になりましたが、身近な自生樹木を市民に紹介する冊子、「牛久の里山樹木ハンドブック」の年度内刊行を目指して、現在編集を行っています。



自由投稿

坂　弘毅

アメリカのワイルドな植物を訪ねて（その１）

　ＴＶ番組の中で、「ワイルドだぜー」というタレントがいます。この「ワイルド」という単語は「荒々しい様」「野性的な」と言うように訳されます。まさに大陸的な言葉ではないかと思います。そして、ソフトバンクのＣＭにバイクで疾走する場面がありますが、この場所がモニュメントバレーにつながる国道US１６３号線です。

　私は今から20数年前、現役の時代にこのワイルドな世界を覗いてきました。仕事の関係でアメリカサンディエゴに４年間の赴任中、そのワイルドな世界をつぶさに観察してきました。

　サンディエゴはアメリカ西海岸の南端にあります。北にサンフランシスコまで８８２㎞、ロサンゼルスまで２０４㎞という立地条件に恵まれています。この間にはヨセミテ、キングスキャニオン、セコイヤ、デスバレー、ジョシュアツリー等の国立公園があります。西海岸から更に州をまたがると、グランドキャニオン国立公園(Arizona)、サワロ国立公園（Arizona）があります。また、アリゾナの砂漠の中に、有名なモニュメントバレーがあります。ここは、アメリカ政府

ジェネラルシャーマンの前で

が唯一認めた自治国で、正式には「モニュメントバレー・ナバホ・トライバルパーク」が正式名となります。自治国ですから、合衆国が国立公園にも指定せず、ネイティブアメリカン・ナバホ族に全て任せ、政府は全く介入していません。このようなワイルドな世界の中で、今回紹介したいのは、セコイヤ・キングスキャニオン両国立公園に自生する巨木です。世界一の体積を持つ巨木、その名を「ジェネラルシャーマン」（シャーマン将軍の木）です。高さ＝81.5m、体積＝1343立方m、樹齢（推定）＝2000年～3000年という巨木です。ふつうのカメラでは絶対に視野に入らないほど巨大でした。まさに「Wild」の世界そのものでした。この2つの国立公園は、国立公園局によって1つの単位で管理されています。即ち、「セコイヤ・キングスキャニオン国立公園」なのです。これらの公園にはレッドウッドと呼ばれるスギの仲間が自生し、「センペルセコイヤ」「ギガントセコイヤ」と分類されます。牛久にもある「メタセコイヤ」とは全く別の種となります。これらの大きなレッドウッドも、落雷等によって焼損するものが多く、見事な木でも落雷で空洞が出来たりして枯死するものが多発しているとのことでした。

牛久自然観察の森だより
チーフコーディネーター　齊藤　孝

木育ひろば「うっしっし」の開設

ネイチャーセンター旧図書コーナーを木育ひろば「うっしっし」としてリニューアルオープンしました。ヒノキの香りに包まれた木のおもちゃ広場には連日子ども達の歓声が響き渡っています。

この「うっしっし」、実は自然公園内に常設された本格的な木育広場は北海道に数例しかなく、本州以南では初という大変に珍しい施設です。

また、自然解説を行うインタープリターが運営する木育広場は全国的に事例が無く、本会が先駆的な取組を開始したことになります。

木育という用語が広く用いられるようになったのは、平成18年に閣議決定された森林・林業基本計画以降で、その中には『市民や児童の木材に対する親しみや木の文化への理解を深めるため、多様な関係者が連携・協力しながら、材料としての木材の良さやその利用の意義を学ぶ、「木育」ともいうべき木材利用に関する教育活動を推進する』とあります。

本会が指定管理者として観察の森に携わって7年、これまでは里山の自然をそのまま楽しむ環境学習を中心に事業を展開してきました。しかし、昨年の原発事故以降、屋外の空間線量や林産物に含まれる放射性物質の影響で、事業によっては実施内容を見直す必要性が生じました。

瑞々しい森林を五感で味わってほしいという願いがありながら、空間線量に関する制限から、現時点での立ち入りが難しい森林も多い観察の森で、当面どのような立ち位置で「自然体験」を提供していくのか、課題は山積みの状況です。

木育ひろば「うっしっし」はその課題に対するひとつのアプローチとして事業を開始しました。

4畳ある「うししの森のおみせ」
ちびっこたちに大人気です

コンセプトは「みんな笑顔でうっしっし！」。余震や放射線の影響で野外での自然体験が制限されている子ども達、それを見守る保護者のみなさんが笑顔になれるよう、木のぬくもりや優しさを肌で感じられるよう、全国各地から手作りの木製玩具・什器を取り寄せて広場を製作しました。

置かれている約50種類の木製品には解説を付けず、まずは直感で楽しんでもらう、興味のある方には解説員が詳細をお伝えする、という趣向での展開です。

広場がオープンした7月1日以降、延べ2千人近くが広場を利用しています。リピーターも多数あり、口コミで評判が伝わっているようです。

まだまだスタートしたばかりの事業ですが、本会のクラフトプロジェクトより寄贈された「木製日本全県パズル地図」も好評で、更に内容の充実を図っていきたいと思います。まずは一度、足を運んでいただければ幸いです。

※追伸…これまで図書コーナーにあった絵本や図鑑類は、それぞれカウンター横と一階階段へ、自動販売機は自動ドア横へ移動しました。使い勝手が変わってどのような印象でしょうか？感想をお聞かせいただければと思います。

根古屋川　「ウナギの放流」

佐藤　輝雄

根古屋川でウナギの放流が行われました

9月9日（土）、牛久沼漁業協同組合・牛久市共催・うしく里山の会協力のもと、ウナギの放流体験が行われました。

市内の小学生親子約30人が参加して約200匹のウナギの稚魚（約30㎝）をかわるがわるバケツで根古屋川に放流しました。

現場は、8月24日うしく里山の会が暑さ厳しい中除草整備したところです。最近、数が少なくなったウナギたちが、元気に大きくなることを願った子どもたちでした。

放流後は3組に分かれて、私たちの案内で、牛久城址～牛久沼遊歩道（新設）～小川芋銭（雲魚亭・カッパの碑）～アヤメ園～三日月橋生涯学習センターを散策し、昼食後解散しました。

バケツに入ったウナギを放流する

運営委員会より

バザーの品物を寄付してください

10月21日に開催されます「うしくみらいエコフェスタ」で本会主催のバザーを開催します。

ご家庭で不要となっている日用品などを寄付してください。収益金は会の運営資金にあてさせていただきますので、ご協力よろしくお願いいたします。

収集場所・・牛久自然観察の森

募集期間・・10月10日ごろまで

結束町みどりの保全区

エコアップ作戦　齊藤　孝

「エコアップ作戦」参加者募集のお知らせ

牛久市結束町の牛久自然観察の森に隣接する「牛久市結束町みどりの保全区」の森林維持管理作業を行う「エコアップ作戦」では、地域の皆さんの協力のもと、下草刈りや除間伐、風倒木の処理等を行なっています。活動には会員・一般問わず参加出来ます。

里山の保全作業や植物に精通したメンバーからノウハウを学ぶことが出来る貴重な機会です。ボランティアを始めたい方、気持ちよく汗を流してみたい皆様のご参加お待ちしています。

10月の活動日時

5日（金）午前9時～11時30分

20日（土）午後1時～3時30分

集合→牛久自然観察の森ネイチャーセンター1階倉庫前（予約不要／荒天時は中止）

持ち物→長靴、軍手（長袖、長ズボン）

※刈払機・チェーンソー使用は資格所有者のみ。

問い合わせ先　029-874-6600

担当：石神

身近な樹木 No.19 キンモクセイ

モクセイ科モクセイ属の常緑広葉樹の小高木。中国原産。雌雄異株。日本で栽培されているのはほとんどが雄株です。高さはふつう4～6mでときに10mを超えます。よく枝分かれし葉を密につけます。樹皮は淡灰褐色です。

葉は対生し、長楕円形、革質で硬く、長さ7～12cm。ふちはほとんど全縁で、ごく細かい鋸歯が先端部にあります。葉の表は濃緑色で光沢があり、裏は淡緑色です。花期は10月、葉のわきに橙黄色の小さな花を束状に多数咲かせます。花は直径約5㎜で4裂し、強い香りを漂わせます。この香で秋の到来を感じさせられます。花が白色のものをギンモクセイといい、キンモクセイにくらべると、香りはやや弱い感じです。

キンモクセイは、「牛久市の木」に指定されております。そのためか、庭・公園・街路などによく植えられています。その強い芳香にしばし癒されています。多くの植栽樹はよく剪定され、写真のように丸く整えられています。

（石川満夫）

開花盛期のキンモクセイ
渡辺 11.10.13

2012年 10月 NPO法人うしく里山の会 活動カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
	1 (休園日) ○アヤメ園(受) 8:00アヤメ園P	2 ○森の畑 9:30畑	3	4 ○アヤメ園(受) 8:00アヤメ園P ○自然観察出前講座 (牛久小)	5 ○里山保全ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ 9:00NC ○クラフトプロジェクト 13:00NC	6 ○親子農業体験講座 9:00畑
7 ○巨木ﾘｻｰﾁ2(特) 8:30ボランティアC (第3回ガイド)	8 (体育の日) ○アヤメ園(受) 8:00アヤメ園P	9 (休園日)	10 (休園日)	11 ○アヤメ園(受) 8:00アヤメ園P ○里山自然観察隊 (ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ里地調査) 8:30得月院前P ○森の畑 9:30畑	12 [会報等原稿〆切]	13 ○公開里山セミナー 10:00NC (牛久の巨樹)
14 ○雑木林応援隊 9:00ムジナ	15 (休園日) ○アヤメ園(受) 8:00アヤメ園P	16 ○森の畑 9:30畑 ○ﾁｰﾑ'街路樹20(受) 8:30ボランティアC (研修会)	17	18 ○アヤメ園(受) 8:00アヤメ園P	19 ○クラフトプロジェクト 13:00NC	20 ○運営委員会9:00NC ○理事会11:00NC ○親子農業体験講座 9:00畑 ○里山保全ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ 13:00NC
21 ○雑木林応援隊 13:00炭屋	22 (休園日) ○アヤメ園(受) 8:00アヤメ園P	23 ○森の畑 9:30畑	24 ○ﾁｰﾑ'街路樹20(受) 9.00 中央図書館集合 落葉掻き	25 ○アヤメ園(受) 8:00アヤメ園P	26	27 ○ﾁｰﾑ'街路樹20(受) 13:00ボランティアC 交流会 ○親子農業体験講座 9:00畑 ○巨木ﾘｻｰﾁ2(特) 8:30ボランティアC (第4回管理) ○会報発送 13:00NC
28 ○雑木林応援隊 9:00炭屋 (ツルカゴ教室)	29 (休園日) ○アヤメ園(受) 8:00アヤメ園P	30 (休園日)	31 ○森の畑 9:30畑			

※活動日は天候等により変更となる場合があります。

最新情報はホームページをご確認ください。

【凡例】

森：牛久自然観察の森
NC：牛久自然観察の森ネイチャーセンター
P：牛久自然観察の森駐車場
炭小屋：牛久自然観察の森駐車場奥の炭小屋
畑：牛久自然観察の森駐車場奥の畑
コジュケイ：牛久自然観察の森コジュケイの林
観察舎畑：牛久自然観察の森内観察舎前の畑

ムジナ：結束町の雑木林(通称ムジナの里)

市役所：牛久市役所本庁舎
市役所脇：市役所横の近隣公園
ボランティアC牛久市ボランティア市民活動センター
中央生涯C：牛久市中央生涯学習センター

アヤメ園：三日月橋観光アヤメ園

(休園日)：牛久自然観察の森休園日
(受)：受託事業
(特)：特別事業

編集後記

毎回、会報の編集に入ると編集後記には「暑い」「酷暑」「今年は特別だ」等の文字が表現されてしまう。昨日から急に涼しくなった。そうするとあの暑さは何だったのだろうか。

しかし、天気予報によるとこの22～3度の気温が平年であって、温度の落差に慣れない身体は肌寒く感じてしまう。体調も乱れるかもしれない。

最近多く見られるアヤメ園の彼岸花も、今年は9月24日現在ほとんど咲いていない。まだ真夏のミンミンセミが大きな声で鳴いている。各地でも彼岸花の開花が遅いようで、この夏の暑さが生き物たちにも秋の訪れを感じさせないのだろうか。また、気のせいかアヤメ園で除草していてもイナゴが少なく感じる。昨年は集団で移動していたのに、これも暑さの影響かもしれない。

昨日、読売新聞に今年の秋分の日（9月22日）は116年ぶりとの記事があった。秋分の日が23日から外れたのは33年ぶり、22日に早まるのは116年ぶりとのこと。理由は地球が太陽の周りを365日と6時間弱で1周しているため、この端数でズレが生じ、うるう年の調整になるようだ。24節気では、9月22日（秋分）・10月8日（寒露）・10月22日（霜降）・11月7日（立冬）の順と続く。この文字を見ると9月も後半になりやっと秋らしくなり、やがては早くも木枯らし一番なんて声も聞こえるかもしれない。

佐藤　輝雄記

広報委員会からのお知らせ

次号2012年11月号の発送は10月27日土)発送の予定です。うしく里山の会ホームページではカラーの会報を見ることができますので是非ご覧下さい。また会報に対するご意見や皆さまからのご投稿をお待ちしております。　　メールのアドレスは(u-satoyama@jcom.home.ne.jp)です。

※表紙上段の「うしく里山の会」のホームページのアドレスが変わりました。